

平成29年第1回網走市総合教育会議議事録

1. 開催日時 平成29年12月18日(月)

開会 午後2時00分

閉会 午後2時35分

2. 開催場所 網走市役所市議会委員会室

3. 協議事項

教育課題について

(1) 学力、体力向上について

(2) 障がい者スポーツ振興について

(3) その他

4. 出席委員

網走市長 水谷 洋一

網走市教育委員会

教育長 三島 正昭

委員 新谷 哲也(教育長職務代理者)

委員 富永 雄一

委員 杉本 匡規

委員 中山 真弓

5. 会議に出席した事務局職員

学校教育部長 田口 桂

社会教育部長 猪股 淳一

学校教育部次長 大西 篤

社会教育部次長 岩本 博隆

学校教育課長 永倉 一之

社会教育課長 吉村 学

スポーツ課長 鈴木 聡

図書館長 児玉 卓巳

博物館長 米村 衛

美術館長 古道谷 朝生

総務防災課長 岩尾 弘敏

(企画総務部長代理)

学校教育課庶務係長 松原 幸信

6. 傍聴者 なし

報道機関 1社

7. 議事の経過 別紙のとおり。

田口学校教育部長	定刻になりましたので、ただ今から平成 29 年度第 1 回網走市総合教育会議を開会いたします。開会にあたり、水谷市長から挨拶があります。
水谷市長	開会あいさつ
田口学校教育部長	この後の議事の進行につきましては、網走市総合教育会議設置要綱より議事の進行は市長をもって充てるとありますので、水谷市長にお願いします。
水谷市長	それでは、協議事項（１）「学力、体力の向上について」を事務局から説明願います。尚、説明は、着席のままで結構です。
大西学校教育部次長	１ 学力向上について 網走市の児童生徒の学力の状況並びに、学力向上の取組につきまして、「平成 29 年度 全国学力・学習状況調査結果」からご説明申し上げます。資料 1 ページをご覧ください。今年度は、小学校 6 年生 293 名、中学校 3 年生 291 名を対象に 4 月 18 日に実施しました。 1 ページには、「各教科の平均正答率」の表と「各教科・領域別の状況」のレーダーチャートを記載しております。全国との差で見ますと、小学校では、「算数Ａ」で全国・全道平均を上回り、「国語Ａ」で全道平均を上回りました。中学校では、「国語ＡＢ」「数学ＡＢ」ともに、全国・全道平均を下回っております。各教科・領域別の状況については、レーダーチャートをご覧ください。小学校は、算数Ｂの「図形」が他に比べて全国平均との差があるほかは、どの領域もほぼ全国平均と同様の結果になっております。中学校は、国語に比べ数学において、全国との差が開いている領域があることが分かります。これは、昨年と同様の傾向になっております。続いて 2 ページの「児童生徒質問紙調査」のレーダーチャートをご覧ください。 上段の生活習慣のチャートから読み取れる点として、テレビを見る時間、ゲームをする時間、インターネットやメールをする時間が、全国平均に比べて長いことがわかります。中段の学習習慣のチャートから読み取れる点としては、学校の授業時間以外に勉強する時間（塾での学習を含む）が、小・中学生ともに全国に比べ短いことがわかります。「学校の授業の復習をする」と回答する児童生徒が全国よりも多いところは、昨年度と同様であり、復習を中心とした宿題の取組が進んでいることがわかります。下段の、自尊意識、規範意識のチャートから読み取れる点としては、「自分にはよいところがあると思う」「学校のきまり（規則）を守っている」児童生徒の割合が、全国に比べ低いことが分かります。児童生徒質問紙の結果は、年度

によって、または、学校によって特徴が異なり、網走市の特徴・傾向という見方ができないところもありますが、児童生徒質問紙の結果については、全国平均よりも高ければよいというものではなく、多くの児童生徒が「そう思う」と回答できるように取組んでいく必要があると考えております。3ページは、「網走市教育委員会における学力向上の方策」について、7点について記載しております。網走市の子どもたちの学力は、経年比較では改善の傾向は見られておりますが、教科、領域によっては課題が見られる状況があります。学力の課題やこれまでの取組の成果を学校、家庭、地域と共有するとともに、児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けるための取組を充実させるための方策を示しております。多くは昨年度から引き続き取り組むものですが、学校における指導においては、新たに加えた、1の3つ目、「読書指導や家庭学習習慣の定着に向け、成果を上げている学校の取組を参考に、各学校の取組の改善を図っていくこと」、3の2つ目、「全校共通指導事項の徹底など、学習規律の定着を図っていくこと」の取組について、学力向上推進委員会と連携した取組の充実を図っていきたいと考えております。以上で説明を終わります。

2 体力向上について

網走市の児童生徒の体力の状況並びに、体力向上の取組について、ご説明申し上げます。体力テストにつきましては、全国調査の対象となるのは、小学校5年生と、中学校2年生ですが、網走市におきましては、6月～7月に全小中学校の全学年で実施しております。今年度の調査結果につきましては、1月に届く予定になっていることから、本日は、「平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」から、体力の状況について説明させていただきます。資料4ページからをご覧ください。4ページには、「体格に関する結果」を記載しております。「身長」が全国平均を上回ったのは、小学校女子と中学校男子ですが、「体重」は小学校男女、中学校男女ともに全国平均を上回っております、そのため、中学校男子以外は肥満傾向児の割合が高くなっております。次に、5ページには、「実技に関する結果」を記載しております。小学校男子は、8種目中、「握力」「50m走」以外の6種目で全国平均を上回りました。小学校女子は、「握力」「上体起こし」「反復横跳び」の3種目で全国平均を上回りました。小学校は、男女ともに全国平均を大きく下回る種目はありませんでした。中学校男子は、「握力」が全国を越えました。全国平均を下回っておりますが、前年度との比較では、6種目で昨年度を上回っています。中学校女子は、全ての種目で全国を下回りました。27年度との比較では、4種目で前年度を上

回りました。5 ページ中段に、運動に対する意識、運動習慣等の状況について記載しております。小学校、中学校ともに、運動部等に入っている割合が全国より低く、小学校では土日の運動時間、中学校は、平日、土日の運動時間が全国平均よりも短くなっております。また、学力調査と同様に「テレビ、ビデオ、DVDを視聴する時間」が全国平均よりも長い傾向が見られております。5 ページ下段に、本調査結果を受けての改善に向けた方策を示しております。児童生徒の体力向上には、学校・家庭・地域で課題を共有し、体育・健康に関する取組の改善・充実に努めていくことが重要であると考えております。今月 9 日に開催した、第 5 回学力向上フォーラムでは、大学教員に学力と体力の関係性について講演をいただいたり、体力向上に関するワークショップ講座を開催したりしたところです。各学校では、体育の授業改善に努めるとともに、1 校 1 実践の取組などを進めております。学習指導要領に示されている体育科の目標には、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」とあります。その点を踏まえますと、小学校、中学校ともに「運動が好き」と答える児童生徒の割合をより高めていくための取組を進めていくことが肝要であると考えております。今後も教職員を対象とした、体育授業指導改善研修や、日体大との連携による子供体力向上サポート事業の充実を図っていきたいと考えております。以上で説明を終わります。この後、日体大との連携による「子ども体力づくりサポート事業について永倉学校教育課長より説明があります。

永倉学校教育課長

子ども体力づくりサポート事業についてご説明いたします。資料 6 ページ～7 ページをご覧ください。

日本体育大学との連携による事業といたしまして、市内の小学校に通う児童が体力づくりの支援を受ける環境を整備し、「できる喜び」を会得する中で、運動の習慣付や基礎体力の定着を図り、児童の体力づくりの向上に資することを目的として、昨年度から、市内 2 校におきまして、日体大講師をゲストティーチャーとしてお迎えし、全てのスポーツ競技に繋がる「体づくり運動」の指導をいただいたところであり、今年度も「子ども体力づくりサポート事業」として 11 月 28 日に潮見小学校と西小学校の 3・4 年生を対象に実施したところです。レジ袋を使っの体の動かし方や音楽を取り入れての体操など体を動かすことの楽しさを指導していただきました。

授業を受けた子ども達からは「いろいろな運動ができて楽しかった。」「体をいっぱい動かした。」など楽しさが伝わってきており、日体大の先生の言葉をよく聞いて、夢中になって体を動かす様子がうかがえました。

教職員からは、体づくり運動の具体例や子ども達の運動意欲を言葉掛けや授業展開から多くのことを学ぶとともに、授業改善に活きる糸口を得られたとの感想が寄せられました。他の小学校からの要望もあり、来年2月にも呼人小学校、東小学校、白鳥台小学校3校で同じ日体大講師によるこの事業を実施する予定であります。また、来年度も引き続きこの事業を推進してまいりたいと考えているところでございます。以上です。

水谷市長

次に協議事項(2)「障がい者スポーツ振興について」を事務局から説明お願いし、全体を通し、後程、意見交換等行いたいと思いますので説明お願いします。

鈴木スポーツ課長

障がい児・者スポーツ教室の取り組みについてご説明いたします。
資料については、8ページからとなります。

1. 目的について

今年4月から知的障がいのある生徒を対象として、日体大附属高等支援学校が開校しました。網走市としても、日体大附属高等支援学校の開校を契機として、「障がい者スポーツ振興」を図るための取り組みを始めることといたしました。

昨年度から、市内の障がい者団体・関係機関と連携し、意見をいただきながら計画を進め、今年度から「障がい者のスポーツ教室」を始動しました。教室実施の目的については、資料に記載のとおり、「スポーツを行うことにより、健康増進・体力向上、そして、スポーツを通じた仲間づくりが図られることを目指すこととしています。

また、スポーツ教室に参加することにより、スポーツを楽しんでもらい、継続的に体を動かすことへの動機付けになればと考えております。さらには、教室の実施種目にも「障がい者スポーツ大会」の種目もあることから、参加者の中から、大会に参加する選手が生まれることも期待しているところです。

2. 教室の内容について

教室では準備した4種目(卓球、フロアカーリング、フリスビー、ボッチャ)の競技について、休憩をはさみ、自由に参加していただき楽しんでいただく形式をとっています。各種目については、スポーツ推進委員がつき、指導に当たっています。ランニングが好きな参加者は、アリーナ2階の通路を走っていることもあります。

3. 開催状況について

「開催日程」については、資料記載のとおりですが、教室は、昼の部、夜の部の2部制になっています。実施する競技種目は 昼の部、夜の部とも同じです。教室開催の計画当初は、6月から11月まで、月に一日、(第2月曜日に設定) 昼・夜の2回の割合で合計6日＝12回の開催予定としていたが、参加者からアンケートをとった結果、継続開催を希望する回答が多

かったため、2月まで「継続開催する」こととしております。10月の夜の部開催では、日体大附属高等支援学校に場所を移し、附属校の先生による指導を受け実施しました。体操・運動器具によるトレーニング等を実施し、参加者から（満足した表情）好評を得ていたと感じております。また、本教室の開始前（6/8、18時）には、日体大附属校において事前講習会を開催してスポーツ推進委員・所属団体職員らに注意事項等を指導していただきました。

4. 参加状況について

申込者数 53 名…11 月末時点 昼の部 42 名 夜の部 11 名。

年齢別申込数、障がい区分ごとの申込者数（グラフ 人数・割合）、参加率（昼の部、夜の部）は、資料のとおりです。教室の昼の部の参加者は、障がい者団体の所属メンバーを中心とした参加となっており、団体の職員が付き添いとして参加し、参加者の見守り・サポート役となっています。夜の部は、10 歳～30 歳以下の若い年齢層が多く、身体障がい 1 名中学生以外は、皆さん、知的障がいの方です。NPO 手をつなぐ育成会の参加者が多く、口コミで参加者が増えていったものと思われます。夜の部は母親が付き添いで来場し、競技も一緒に参加していただいている状況です。

5. 課題について

① これまで障がい者スポーツへの取り組み実績がなく、ノウハウの不足。この点は、今年度からの初めての取り組みであり、関係団体からの意見を聞きながら始め、いまだ、スポーツ推進委員らによる競技の指導方法、障がい者への接し方など、手探りの状態が続いている状況です。

② 障がい者スポーツの指導員の不足

これにつきましては、公益財団法人 北海道障がい者スポーツ協会において、資格認定手続きが可能であり、札幌市真駒内での講習会受講により、日本障がい者スポーツ協会公認の「障がい者スポーツ指導者」として登録がされます。

- ・道内では上級 18 名、中級 119 名、初級 903 名 合計 1,040 名が指導者として登録されています。（29.6 現在）
- ・網走市の登録者は 29.6 現在 中級 1 名 初級 6 名。今年度は、初級 3 名が受講いたしました。

6. 今後の方向について

・障がい者の適性にあった種目を追加・修正し、教室を継続していきます。教室では身体・知的・精神の障がい区分を一緒に競技をしています。

このため運動能力に影響されない競技種目が好ましいと考え、現在の種目を選択しております。同じ種目だけで、回数を重ねると教室の内容に飽きが来るため、競技種目の変更、内容の修正が必要となってきます。内容の選択肢としても楽しめる競技であるか？ ある程度のゲーム性、勝敗を付けることも必要かと思えます。一方で うまくできない参加者もいるので、勝敗にこだわりすぎないことも検討しております。次年度は、スポー

ツ推進委員と協議・検討し、教室内容の修正・改善をしていく必要があると考えます。

・障がい者スポーツ指導員の育成については、市の取り組みに関わっていただけの方へ資格認定取得のための助成を考えます。各種研修会での情報交換、教室実践等によるスキルアップを期待します。

・日体大附属支援学校との連携という点では、障がい者教育を実践している学校との連携により障がい者スポーツに関する指導内容・方法等を習得・研究し、充実した推進体制を構築していくこととしています。

ここまでが、障がい児・者スポーツ教室の取り組みについてです。

次に その他の取り組みとして、

1. 障がい者スポーツ振興連携会議 について

・「障がい者スポーツの推進」については、「市内の障がい者の団体から意見をいただきながら進める必要がある」との考えから、関係団体が集まり、意見交換・情報交換をする場として「障がい者スポーツ振興連携会議」を設置しました。今年度は、11月24日に開催し、「障がい者スポーツ教室の内容」について、協議しました。今後も必要に応じ、開催の機会を設けることとしています。

2. 障がい者スポーツ合宿誘致について

・障がい者スポーツ推進の取り組みの一つとして、これまでの合宿誘致と合わせ、「障がい者スポーツの合宿誘致活動」を行い、網走市を「障がい者アスリートや指導者の育成の場所」とすることで、市民と障がい者とのふれあいの機会を創出し、障がい者への理解促進を図っていきます。

スポーツ課所管の「障がい者スポーツ振興」の取り組みについては、以上です。

水谷市長

ただ今、事務局の方より協議事項（１）（２）につきまして説明いただきました。ご意見、ご質問等いただければと思います。

三島教育長

全国学力学習状況調査の結果が、厳しいという点より、どのように取り組むかということから、基礎学力の定着を目指し、内容としては、習熟度別授業や、市で配置している支援員を活用しながら算数を中心に学習を進め、まだ全国に追いついていない所はありますが、着実に成果は、上がっております。また、夏休み冬休みの長期休業中の学習サポートは、市内ほぼ全ての学校で実施しておりますし、農大生の協力による学習サポート授業も開催するなど、基礎学力向上に向け、取り組んでおります。また、学力の向上には、教員の質の向上が欠かせない点から、各学校において研修等行っております。また、アンケート結果からも出ております家庭学習時間が短い点やゲーム時間の点など家庭での生活習慣の改善も学力向上につながっていくと思われますので、家庭との連携をいかに図っていくかも課題になってくると思います。教育委員会としては、できる事は、家庭、学校と

の連携も図り、可能な限り行っていきたく思います。

水谷市長 委員のみなさんにおきましては、ただ今、説明があったような事でよろしいですか。(よろしいですとの声)

水谷市長 障がい者スポーツについては、来年もよりいっそう充実をさせていただきたい。今年から始まった事業ですが、更に充実できるようがんばっていただきたいです。そのためには、日体大とよく連携し、継続していただきたいです。

水谷市長 その他ございませんか。(ありませんとの声)
事務局からもございませんか。(ありませんとの声)
他になければ、以上をもちまして第1回網走市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

【会議終了 午後2時35分】